

■発行／南方熊楠顕彰会

〒646-0035 和歌山県田辺市中屋敷町36番地 TEL0739-26-9909 FAX0739-26-9913
http://www.minakata.org/ 〈E-mail〉minakata@mb.aikis.or.jp

自筆資料に見る南方熊楠…………… 22

仔犬と熊楠

文／橋爪 博幸（桐生大学短期大学部講師）

朝十時頃起 午後川島友吉氏犬の子持来りくれる
 淡茶色の嬰兒〔仔犬〕也
 夜〔、〕蛇の話の材料集む 四時過臥す 犬児なき
 眠れず四時過ぎ松枝下女と之を柴の部屋へつなぐ
 然るに翌朝見れば脱出 台所の戸辺に来りなき居
 しと
 右の犬子夜十時過より夜啼し始む、松枝下女しばし
 ば起きる

これは1916(大正5)年12月4日付けの日記で、友人で画家の川島友吉から、仔犬をもらい受けた日の出来事が記されている(南方熊楠顕彰館所蔵資料[自筆260])。毛色が薄茶で「嬰兒」と記されているから、まだ毛も生えそろわぬ犬児だったのだろう。この年の春、熊楠一家は中屋敷町36番地の約400坪の敷地付き家屋(現在の南方顕彰館となり)に住み始めたばかりであったから、広い庭で犬を走らせるのも良いと思っただろうか。いやむしろ、子供たちにせがまれて、父親である熊楠は、しぶしぶ仔犬を飼うことを承諾したのかもしれない。1907(明治40)年6月生まれの熊弥はこのとき9歳で小学3年生、1911(明治44)年10月生まれの文枝は当時5歳だった。

日記に「夜〔、〕蛇の話の材料集む」とあるように、翌年に巳年を控えて熊楠は、雑誌『太陽』に連載する「十二支考」の原稿を書くため、材料集めに勤しんでいた。妻子持ちになってからの熊楠は、午前10時頃まで休み、夜を徹して読書したり、執筆したりする生活が習慣づいていた。

この日も夜遅くまで起きていたが、午後10時過ぎから仔犬が啼き出した。周囲の環境が急に変わったので、仔犬も不安だったのだろう。熊楠にしてみれば巳年の原稿をまとめなければならぬのに、これではうるさくて仕事にならない。熊楠のいらだちは、同じ屋根の下に住む家族にもすぐに伝わる。真夜中であるにもかかわらず、妻の松枝と女中とが、仔犬をなだめる役を買って出た。午前4時に熊楠が床に就いた後まで仔犬は泣き止まず、眠れない。松枝らが別棟の「柴の部屋」に括り付けるも、翌朝には縄をみずから解いて、台所の戸口に来ていたのだった。

南方熊楠顕彰館には、松枝と女中、熊弥と文枝、そして仔犬が揃った家族写真が保管されている(写真1)。二人っ子の晴れ着姿や、松枝の紋付留袖姿が華やかである。南方熊楠顕彰会事務局の



写真1. 左から女中、熊弥、松枝、文枝が並ぶ家族写真。女中は川根ヨネ。[関連0484]

ご教示により、これは1917(大正6)年1月6日に池田写真館に行き行って撮ってもらったものであると分かった。すると、熊弥の右手から伸びる手綱の先に、ちよこんと座る仔犬がまさしく「淡茶色の嬰兒」で、南方家に来て約一か月が経過している。熊弥と文枝が仔犬にまわりつき、世話を焼く様子が目に浮かぶ。熊楠の「雑記帳(2)」に、この犬児と思われるスケッチがあることを杉山和也氏(青山学院大学大学院生)が教えてくれた(写真2)。日付などは記されていないが、両目のあいだから鼻筋にかけて毛色が違って、耳が垂れている様子がよく似ている。



写真2. 「雑記帳(2)」にある仔犬のスケッチ。[自筆147]

さて、1916(大正5)年12月5日の日記を見ると、「又犬の子夜啼する故 箱中に懐炉入れやり予の書斎の椽に置くに安眠し一寸起きず 懐炉灰三本焼く也 徹曉不眠」とある。ここに出てくる「懐炉」とは、鉄粉や活性炭を封入した所謂「使い捨てカイロ」ではなく、「懐炉灰」と呼ばれる筒状燃料棒を入れて暖をとる手のひらサイズの「灰式カイロ」で、後者は今日でも登山用品としてわずかに市販されている。前日、熊楠とともに徹夜仕事をして寝不足だった松枝と女中は起きてこない。それでは、と熊楠は自身の懐にあった「懐炉」を取り出し、箱に入れた。夜を徹して「蛇の話」の材料を集めながら、三度「懐炉灰」を交換してやった。こうして熊楠は燃料棒とともに、犬児の世話を焼いた。最初は仕方なく「懐炉灰」を交換していた熊楠だったが、いつしか仔犬の寝息を乱さぬよう、静かに箱をあけて燃料棒を入れ替えてあげたのだろう。底冷えのする師走の真夜中に繰り広げられた、仔犬の懐と、われわれの心とが温まる逸話だ。

CONTENTS

第28回南方熊楠賞 受賞者決まる	…2
第38回 熊楠をもっと知ろう! 講演会 杉山 和也	…3
第38回 熊楠をもっと知ろう! 講演会 岩淵 幸喜	…6
第38回 熊楠をもっと知ろう! 講演会 松居 竜五	…12
交友録 岩淵 幸喜	…17
150周年記念式典・シンポジウム報告 長瀬 稚春	…20
南方熊楠と生物多様性 池田 清彦	…22
『『知の巨人』熊楠と新聞人楚人冠』展 高木 大祐	…24
Art Review 展覧会評 唐澤 太輔	…26
南方熊楠と同級生たち 郷間 秀夫	…30
書簡の杜 (十八) 岸本 昌也	…32
書評・新刊紹介 築瀬 ベーテル	…34
南方熊楠研究会 年次大会開催について	…35
『熊楠』生物覚え書 ㊿ 土永 知子	…36
熊楠メモランダム 杉山 和也	…37
【追悼】 武上真理子さん 飯倉 昭平	…38